

第4学年 道徳科学習指導案

日時：令和7年 5月28日（水）
5校時 （13：20～14：05）
学年：第4学年

1 主題名 正しいと思ったことは自信をもって

A「善悪の判断、自律、自由と責任」（主として自分自身に関すること）

教材名 「いっしょになって、わらっちゃだめだ」（出典 東京書籍「新編 新しいどうとく」）

2 単元の目標と評価規準

- ・善悪を判断し、最善だと思ったことを行おうとする態度を育てる。

3 教材について

主人公は、いじめを止めるために考えを巡らせるが、なかなか自分では行動には移せない案ばかりが思い付く。結果的に「教室から無言で出る」という行動をとるが、いじめを直接止められる行動ではない。しかし、これは主人公が自分のできることを精いっぱい考えて出した答えである。考えを重ねて最善の方法を考え出すことで、自信をもって行動することができた。

「相手の気持ちを考えて行動する」とときには、相手の気持ちに寄り添い、自分の最善を尽くすことが大切であると気付かせたい。

4 児童の実態

いじめを見たときの行動についてアンケートを取ると、

- ①先生や大人に言う。 ②注意したり、止めたりする。 ③いじめられた人に寄り添う。

という結果が多かった。一方で、友達が悪いことをしていると分かっているにもかかわらず、友達に注意できないことがあると答えた児童の割合は37.5%であった。（24人中9人）

また、友達がよいことをしているときには、声を掛けることができると回答した児童が多く、「できない」を選択した児童は0名であった。

以上のことから、よいことをしている相手にはすすんで話しかけることができるが、悪いことをしている相手に注意するときには、躊躇する児童がいることが分かった。

Q6 友達が悪いことをしていたときに、注意できる。



Q5 友達がよいことをしていたときに、お礼を言ったりほめたりできる。



5 単元の目標にせまるための手立て

(1) 主体的な学び (2) 対話的な学び

○発問の工夫

- ・子どもたちが考えたいくなるような発問や問い返しを行い、自己の経験をもとに主体的かつ意欲的に考えることができるようにする。
- ・ペアや周囲の人と話し合ったり、友達の意見を聞いたりして自分の考えを形成する。

(3) 深い学び

◎自分自身のこととして考え、議論する。

- ・教科書に書かれている「目に見える行為行動」と、教科書に書かれていない「それを生む心」をセットで考えさせることで、教材文の読解に留まらず、児童が教材文に自我関与して考えることができるようにする。
- ・自分の経験を根拠に話すことを通じて、自分自身について振り返ったり、今後について考えたりできるようにする。

○板書の工夫

- ・児童の発言を意図的に板書することで、それを根拠に価値をとらえ、考えられるようにする。
- ・児童の発言を図式化するために、横書きで板書する。

○ワークシートの工夫

- ・「メモ」は板書を写すスペースだが、書き写すことに精いっぱい、考えることができなくなる児童もいる。そのため、考えるために必要なことのみを書き写すように指導している。また、黒板をそのまま写すのではなく、自分なりにアレンジを加えてもよいことにしている。
- ・「学んだこと・考えたこと」に、今日の学習についての考えを書き、自分の考えをまとめる。この欄を見ることで、その児童の考えの変容を見取ることができる。

6 本単元とキャリア教育のつながり

【中学年のキャリア教育目標】

- 自己理解・自己管理能力・・・「自分のよさを伸ばす」
- 人間関係形成・社会形成能力・・・「相手の気持ちを考えて行動をする」
- 課題解決能力・・・「課題に対してすすんで取り組む」
- キャリアプランニング能力・・・「みんなのためにすすんで行動する」

中学年として定めたキャリア目標は上記の4点である。本時では特に、○人間関係形成・社会形成能力に重点を置き取り組むことにした。

○人間関係形成・社会形成能力・・・「相手の気持ちを考えて行動をする」(本時)

「相手の気持ちを考えて行動する」ことの大切さは、子どもたちもよく理解している。一方で、「こうするべきだ。」という正しい考えをもちながらも、なかなか行動に移すことのできない弱さがあることに注目し、教材文を読み進めてゆく。主人公は「相手の気持ちを考えて行動したい。」という心と「自信がないために行動できない。」という二つの心で葛藤する。それを乗り越えて行動に移すことができた理由や心を考えることで、「最善を尽くすために深く考え、行動できることの大切さ」に気付かせたい。また、今回の授業が、今後の生き方を考えるきっかけとなるようにしたい。

7 本時の学習

(1) 本時の目標 善悪を判断し、最善だと思ったことを行おうとする態度を育てる。

時間	学習活動 ○主な発問 ◎中心発問 ・児童の反応	◇指導上の留意点 ☆評価
導入 10分	1 本時の内容項目から考える。 ○アンケート結果を見ると、大体3つに答えが分かれていたんだけど、自分の考えに近いのはどれかな？ ①先生や大人に言う。 ②注意したり、止めたりする。 ③いじめられた人に寄り添う。 ④それ以外。 →でも、今日のお話の主人公は「教室を出ていく」んだよね。 なぜだと思う？ ⇒・なんでだろう…。 ・無視したのかな…。 ●「ぼく」がどうしてもこのような行動にしたのか、一緒に考えてみよう。	◇事前アンケート結果を活用する。 ◇思考のずれを生み出し、考えたいという意欲を引き出す。 ◇内容項目への方向付けをしていく。
展開 25分	2 教材文「いっしょになって、わらっちゃだめだ」を読み、話し合う。 ○「いろいろ考えていた」とあるけど、どんなことを考えていたかな？ ⇒注意するとか、先生に言うとか…。 →みんなが言っていた、①～③と同じようだけど？ ⇒分かっているけど、行動できないこともある。 ◎「ぼく」はどうして「教室を出ていく」ことにしたのだろう。 ・それが「ぼく」にもできることだったから。 ・自分もいじめられていると思われたくないから。 ・止めないといけないと思った。 ・ゆうじが暗い気持ちになっているから。 →いちばん大切なものはどれだろう。 ⇒・いじめを止めたい、という心をもっていること。 ・相手のことを考えて行動することが大切。 →今日の学習には、キャリア教育目標が関わっていたね。 ○相手のことを考えた行動には、どんなものがあるかな？ ・声を掛ける。 ・困っていたら助けてあげる。 →こういうことができる人が増えると、どんなクラスになっていくかな？ ・いじめがなくなる。 ・お互いに助け合える。 ・みんなが仲良しなクラス。	◇教材文の内容を確認する。 ◇経験に根拠を求めると、自我関与させる。 ◇児童の発言を板書し、変化していった過程を示す。 ◇「ぼく」の大本にある心に気付かせる。 ◇キャリア教育目標と関連させる。 ☆本時で考えたことから、考えを発表している。(発言)
終末 10分	3 ふりかえり ・本時の学習で学んだことを、ノートを使ってふりかえりを書く。	☆自分の考えを記入している。(ワークシート)